

FMプロジェクトマネジメント研究部会

「人」フォーカス時代の FMプロジェクト マネジメント

企業を取り巻く経営環境は大きく変化し、特に働き手の確保に課題を感じる経営者は多い。FMプロジェクトマネジメント研究部会は「人」フォーカス時代のFMプロジェクトマネジメントと題し、経営者やファシリティマネジャーに向けてSDGs等の新たな価値創造に関する講演を行った。SDGsの17目標から、ファシリティで課題解決に取り組みやすい目標として「No3. すべての人に健康と福祉を (Well-being)」と「No8. 働きがいも経済成長も (Engagement)」に着目し、ファシリティとの関係およびプロジェクトマネジメント (以降、PM) スタイルへの影響に関する調査研究成果を共有した (図表)。当講演には約70名もの来場があり、当分野に対する関心の高さがうかがえた。

「No3. すべての人に健康と福祉を (Well-being)」を実現するPMスタイル

当部会ではWell-beingを「働き手が肉体的・精神的・社会的に満たされた状態」と位置づけ、WELL環境 (Well-beingに資するファシリティ)のものさしのひとつであるWELL認証(β版)の11のコンセプト(空気、水、食物、光、フィットネス、快適性、こころ、他)を改善することが目標達成につながると考えた。

喫煙室の廃止による空気質の改善やフィットネス・快適性を意識した什器の導入などは、テナント企業でも取り組むことが可能である。一方、WELL環境に関心が高い経営者は増加しているが投資対効果の設定が難しいことが多く、スコープ設定とWELL

FMプロジェクトマネジメント研究部会
部会長

吉井 隆 よしいたかし

西日本電信電話株式会社
財務部 不動産企画室 不動産企画担当課長
認定ファシリティマネジャー



環境による目的達成の関係を明らかにし、マネジメントしていくPMスタイルが必要である。

「No8. 働きがいも経済成長も (Engagement)」を実現するPMスタイル

当部会ではEngagementを「個人と個人、個人と組織が相互に信頼しあっている状態」と位置づけ、「強味を生かせる環境」「期待値を合わせること、そのプロセス」「ビジョンの共有」などの施策がEngagementを高めると考えた。Engagementに取り組む企業事例として、社内外有識者によるトークイベントや立場を超えたつながりで各社員の「やりたい」を実現する「イベントコート」(SONY品川本社)、ABW・フリーアドレスによるコミュニケーションロスを解消する各部門専用の「BUSHITSU」(オカムラ本社)などの視察を行った。Engagementを高めるプロジェクトでは、働き手を巻き込んだステークホルダーマネジメントおよび構築時に限らず運用開始後も継続的な共感醸成の仕組みをつくるPMスタイルが必要である。

今後の展望

次年度の調査研究活動としては、今年度の調査研究内容に基づいて「スコープマネジメントとしての定量的な視点の組み込み」「ステークホルダーマネジメントとしての多様な関係者の巻き込み手法」等の深掘りおよびSDGsの他の目標に対するPMスタイルの考察や事例視察等を行う予定である。

当分野に関する関心を持たれた方はぜひ部会に参加いただき、一緒にその方法論を模索できれば幸いです。



図表 SDGsの17目標から、ファシリティで課題解決に取り組みやすい目標に注目